

京まち工房 59

特集

防災からはじめるまちづくり



公益財団法人への移行について

当財団は、京都府知事より「公益財団法人」として認定され、
2012年4月1日から「公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター」として、
新たな一歩を踏み出しました。

公益法人制度は、既存の法人からの申請に基づき公益事業体としての役割と責任の遂行力を審査して「公益法人」として認定することで、その法人が、社会的信用を高め、さらに法人への寄付金(金銭ならびに財産権)への税控除の優遇措置により運営力の強化を期待するものです。

当財団は、京都がいつまでも京都であり続けるために、この新しい運営条件を活かして、恵まれた豊かな自然環境や歴史と文化が息づくまち京都の特徴を最大限に活かしたまちづくりを皆様とともに進んでまいりたく存じます。

理事長 三村浩史

個人の場合

寄付金・賛助会員会費は、
税制面での優遇があります。

法人の場合

法人税の優遇があります。
手続きにつきましては、後日 HP に掲載させていただきます。
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

賛助会員募集

年会費

個人 1口 5,000円
団体 1口 50,000円
(入会は随時受け付けています)

センターの活動の趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集し、会費は情報誌の発行やまちづくり活動の支援、京町家の保全、再生に向けた取り組みなどの事業に活用させていただきます。

- ニュースレター「京まち工房」送付 (季刊・年4回)
- セミナー等の御優待 参加人数を限定させていただいているセミナーの優先受付や参加費の割引をさせていただきます。

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階

TEL : 075-354-8701 FAX : 075-354-8704
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

開館時間

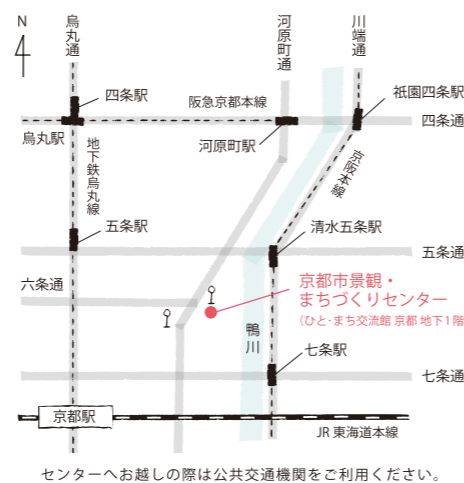
平日・土 9:00 ~ 21:30
日・祝 9:00 ~ 17:00

休館日

毎月第3火曜日(国民の祝日にあたるときは翌日)
年末年始(12月29日~1月4日)

交通系統

バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩 10分



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

マチ右衛門 Twitter



京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

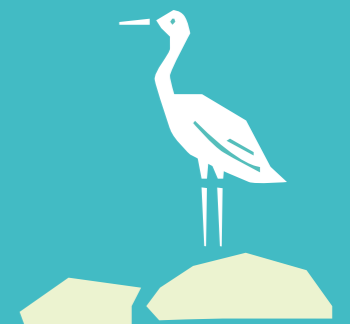
景観・まちづくり大学
景観・まちづくり大学

まちづくりイベント
私が見つけた嵯峨・嵐山

まちづくり報告
第13回世界歴史都市会議

京町家まちづくりファン
改修助成物件でのイベントのご報告

コラム
私と京都
スタッフのつぶやき



<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

特集

防災からはじめる まちづくり

「防災まちづくり」について 地域で使える情報をお伝えします

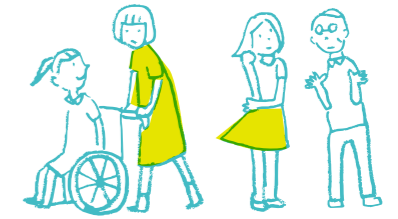
2011年度、防災まちづくりをテーマに、8月～2012年1月まで5回のまちづくり実践塾 連続セミナーを開催しました。京都に起こり得る災害について、また災害の個別課題に備えて、地域で取り組むまちづくり活動に使える情報やツールについて学びました。そして3月にこれらのまとめとなるシンポジウムを行い、もしもの時の支え合いについて多くの方々と一緒に考えました。



まちづくり実践塾
第2回
9/10 (土)

二次災害を防ぐ地域の力 福祉から見た地域の防災力

講師 後藤至功氏 (佛教大学福祉教育開発センター講師)
朝倉眞一氏 (まちひろば計画工房主宰/京都市まちづくりアドバイザー)



大規模災害時の二次災害(関連死)を防ぐには、日頃の地域活動、地域のつながりが大きな役割を果たします。非常事態では、普段に比べ要配慮者は周りの助けがなくては乗り越えられないことが多々あります。しかし、ちょっとした工夫や手助けで、その後の在宅復帰がしやすくなったり、孤独死を防いだりすることができます。また、ひと括りに要配慮者といっても、子ども、女性、外国人、高齢者、障害者等、それぞれに必要なとされることは異なります。災害時の地域の要配慮者への支援方法や避難所運営を想定した取組、地域の安心安全の取組等について、事例を元に地域福祉の観点から見た地域力が何かということ



学び、もしもの時を想定し、地域力そのものを高めていくことの大切さを学びました。



まちづくり実践塾
第1回
8/27(土)

防災まちづくり総論 東日本大震災を人ごとにしな

講師 牧紀男氏
(京都大学防災研究所巨大災害研究センター准教授)

京都に起こり得ると言われている南海トラフによる地震や「花折断層」「琵琶湖西岸断層」「桃山断層～鹿ヶ谷断層」「宇治川断層」「黄檗断層」などによる様々な直下型地震では、京都のどの地域に、揺れや地盤沈下、液状化等がどのくらいの被害として想定されるのでしょうか。自然災害について私たちが考えるべきことは何か。災害は自然の外力(断層や地震の大きさ等)で決まるのではなく、人口や地域の持つ防災力(堤防・避難所・災害時の対応力)により確定します。地震は止めることはできませんが、私達社会側が防災力を高めることで、自然災害に対抗することができます。大事なことは己の命を守り、地域で命の助け合いをするための対策ができていることです。これらの現状と対策について、様々なデータや事例から学びました。また、行政(京都市)が災害対策に向けたネットワークづくりや、支援制度づくりを行っていることについても教えていただきました。

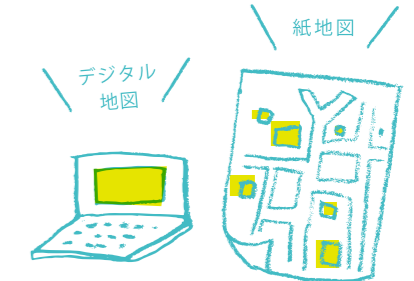


- 琵琶湖西岸断層
- 花折断層
- 桃山断層～鹿ヶ谷断層
- 榎原～水尾断層
- 光明寺～金ヶ原断層
- 黄檗断層
- 宇治川断層
- 有馬・高槻断層

まちづくり実践塾
第3回
11/5 (土)

災害マップの新たな視点 身近な地域の災害予測を デジタルマップで見てみよう

講師 花岡和聖氏 (立命館大学文学部地理学教室助教)



災害マップには、紙地図とデジタル地図の2種類があります。皆が集まって地図作りを行う場合には、作業や情報共有のしやすい大きな紙地図が役立ちます。一方、地図を、いつでもどこでも、閲覧・編集し、情報を更新していくことを考えた場合、利便性が高いのはデジタル地図です。両方の良いところを取り入れたツールを教えてもらい、実際にマップづくりを体験した後、地域の防災についての意見交換を行いました。

また、災害マップの大切な視点として、京都にたくさんある細街路について学びました。地震で崩壊した建物等によって道が塞がれてしまう可能性が高いため、あらかじめどこで道路閉塞が起こり得るかの危険について理解しておく必要があります。大切なのは、災害発生前から家族や地域での防災・救助体制を考えておくことです。そのためのツールとして、デジタルマップを活用することは、今後ますます重要となるかもしれません。

まちづくり実践塾

第4回
12/3 (土)

災害図上訓練からの 防災計画づくり 防災まちづくりに向けて

講師 大窪健之氏
(立命館大学理工学部教授/
グローバルCOE [歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点] 拠点リーダー)

最悪の事態に対応できる市民防災力とは何か。地震火災の際など、現場の住民によって有効的な初期活動が行えれば被害は最小限に抑えられます。そのためには、住民参加による防災計画づくりが不可欠で、しかも計画の見直しを継続的に行っていくことが重要です。しかし、重要伝統的建造物群保存地区*を例にしても、住民の意見を取り込んだ防災まちづくりが行われている地域は少ないのが現状です。第4回で実際に試してみた、「災害図上訓練 (Disaster Imagination Game)」というワークショップでは、災害想定を元に、地図を囲んで住民、行政、企業等、様々な立場や視点から意見を出し合い、地図にマーキングを重ねていきます。このような多くの方が参加しやすい形式であれば、まちの再確認だけでなく合意形成もしやすいので、継続的な取組ができるのではないのでしょうか。

災害図上訓練 (DIG)



「重要伝統的建造物群保存地区」とは？

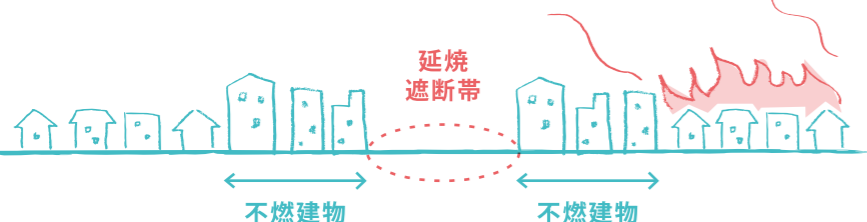
伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存する地区を「伝統的建造物群保存地区」として市町村が指定します。そのうち、特に価値が高いものを国が選定し、「重要伝統的建造物群保存地区」と定めて支援します。

適切な改修が大事



延焼防止対策

狭い道路の拡幅による「延焼遮断帯」の配置と沿道建物の不燃化。



景観・まちづくり
シンポジウム
3/10 (土)

まちの絆が命をまもる —防災からはじめるまちづくり—

コーディネーター 大窪健之氏 (立命館大学理工学部教授)
パネリスト 樋本圭佑氏 (京都大学防災研究所助教)
黒田裕子氏 (NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク 理事長 他)
阿部恒世氏 (京都市消防局防災危機管理室担当課長補佐、消防司令)



災害に強いまち、京都



「福祉避難所」とは？

避難生活において福祉サービスの提供等の配慮が必要な高齢者や障害のある方などを受け入れる避難所。

まちづくり実践塾

第5回
1/14 (土)

防災研究の最前線から学ぶ 京都の延焼リスクと対策アイデアとは？

講師 樋本圭佑氏 (京都大学防災研究所助教)
安井昇氏 (早稲田大学理工学研究所研究員)

木造密集市街地である京都は、燃え広がるリスクの高い都市です。東日本大震災と阪神淡路大震災ではそれぞれ約300件の火災被害がありました。阪神淡路大震災の出火では、ほとんどが木造密集市街地で起きており、京都でも地震が起こった際にはそういった地域での出火が予測されています。セミナーでは、東山地区を例にシミュレーションを見て、燃え広がり方について学びました。

また、個々の京町家のような木造住宅の防火力について、防火実験の映像等を参考に教えてもらい、木造であっても適切な改修ができていれば、すぐに燃え広がるわけではないことがわかりました。防火対策は、個々の住宅の改善から道路整備まで幅広くありますが、地域の中で防災のことを考える際は、ソフトの訓練だけでなく、ハードの整備についても考えてみてください。

関西圏における大地震に備え、いざという時に助け合う「共助」のために、市民一人一人が役割を發揮することについて考えるシンポジウムを開催しました。東日本大震災の教訓を踏まえて京都の防災対策の総点検と、災害に強いまちづくりの取組みについて阿部恒世氏による報告を受けて、黒田裕子氏からは「日常生活の中で地域の支援体制をいかに強化していくか」という指摘がなされました。樋本圭佑氏からは、「京都の木造密集市街地における火災リスクの高さと特にハードの対策の重要性」の指摘があり、大窪健之氏は、

「継続的な防災の取組みに向けて、景観保全と延焼防止のために土蔵を改修した他都市の事例や、地域の消防活動という住民による自主的な取組への期待」も語られました。第二部では「地域に即した継続できる防災訓練のイロハ」「地震火災に強いまちづくりのアイデア」「現場に学ぶ避難生活のヒント」の分科会に分かれて、地元活動家らによる先進的な防災事例の紹介後、大学と地域の連携のアイデアや各自が主体的に参画できる活動について、活発な意見交換が繰り広げられました。

6回のセミナー、シンポジウムを通して、「もしも」の時に起こることや対策について学びました。全部を一斉に行うことは難しいと思いますが、個々や地域でできることからやってみられては如何でしょうか。これらの具体的な内容については、「防災まちづくりのスズメ」として冊子にまとめています。ご入り用の方は京都市景観・まちづくりセンターまでお問い合わせください。(2012年夏 発行予定)



景観・まちづくり大学は京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つことを目的としています。

京町家再生セミナー

第4回 3/24 (土) 開催

京町家を次の世代に引き継ぐための相続対策と相続税対策

講師 石田光曠氏、磯林恵介氏 (京町家承継促進研究会)



センターの窓口には、町家の相続についてのご相談も多く寄せられています。司法書士の石田先生から「京町家を次の世代に引き継ぐための相続対策」について、税理士の磯林先生から「相続対策、相続税対策の考え方」について分かりやすくお話しいただきました。

町家をお持ちの方のご参加が多く、真剣なご質問がたくさん寄せられたのが大変印象的でした。

京町家住まい方ラボ

第4回 1/29 (日) 開催

町家暮らしを支える職人さん — “洗い” という仕事にふれる —

講師 今江清造氏 (株式会社 イマエ)

コーディネーター 朝倉真一氏 (まちひろば計画工房主宰)



町家にお住まいの方から「お話を聞きたい」とリクエストの多かった「洗い屋さん」。今江清造さんに、洗いの技術や町家の維持管理についてお話しいただきました。歴史を経た町家や寺院の

黒くなった柱や梁、板戸等は、今江さんの手にかかるると新築当初の美しい木目が甦ります。

洗い屋さんのお仕事の奥の深さに触れて「町家をきれいに住み続ける参考にしたい」という声が多く寄せられました。

木部に水を含ませたり苛性ソーダを使って汚れを浮き出したりするためのササラ等の道具。ササラは今江さんの手作り。



2011年度に開催したプログラム

- 9/4(日) 第1回 大工さんに聞く、京町家のキホン
講師：狩野文博氏、堀榮二氏、得能信幸氏 (京都府建築工業協同組合)
- 11/6(日) 第2回 京町家から考えるエコ
講師：内藤郁子氏、冨家裕久氏 (社京都府建築士会)
- 2/12(日) 第3回 明日につながる、京町家の活かし方「住みたい」や「貸したい」疑問に答えます
講師：西村孝平氏、吉田光一氏 (京都府宅地建物取引業協会)

2011年度に開催したプログラム

- 7/3(日) 第1回 町家の夏を科学する—夏を乗り切る知恵と工夫—
講師：松原斎樹氏 (京都府立大学生命科学研究科教授)
コーディネーター：朝倉真一氏 (まちひろば計画工房主宰)
- 10/23(日) 第2回 京都の文化を活かして、町家の防火・耐震性を高める
講師：田村佳英氏、武田真理子氏 (関西木造住文化研究会)
- 12/17(土) 第3回 年末大掃除のコツと正月飾り + お餅つき
講師：秦めぐみ氏、風月匠幹廣氏 (NPO法人 古材文化の会)

町家所有者・居住者の集い

京町家再生セミナーをきっかけに発足した、町家にお住まい・お持ちの方々のネットワーク。不定期で集まって、ペンガラ塗り体験や町家の見学、意見交換会や情報交換を楽しみながらしています。



文 = 大屋みのり

京のまちづくり史セミナー

第7回 3/3 (土) 開催

美しい京都の景観とは？

—多様な自然とその循環を「管理」するまちづくり—

講師 森本幸裕氏

(京都大学大学院農学研究科・同地球環境学堂教授)



山紫水明の都といわれる京都に脈々と引き継がれる文化の背景には、多様な生き物の原理である「景観生態」があるというお話をいただきました。自他共に認める稀有な歴史

都市、京都の自然・文化は、1200年もの間、その姿形を変えながら継承されています。ひとたび自然・文化の破壊が起こっても上手く再生を繰り返すこのような営みの事をレジリアンス能力と言うそうです。

「1200年の都」という京都の突出したレジリアンス能力



地域全体の生態系から景観を考える視点

の鍵はこの「立地条件」にあります。京都の地理は背山臨水で、背景に船岡山、南に巨椋池、東に鴨川、西に山陰道をのぞむ盆地地形であり、周囲の山から生まれる水が自然・文化の持続性に、とても大事な役割を果たしています。

平安京の美しい風景は山や水、平地といった要素の接点から形づくられてきました。修学院離宮が景観的に優れているのは、山や谷、棚田など異なる様々な要素が交錯する「エコトーン=推移帯」にあるからです。美しい景観は自然生態系のバランスや我々の暮らしと自然との距離の上手な取り方に委ねられているのです。

文 = 大久保悠子

地域情報交流会

3/17 (土) 開催

まちに活かす地域 SNS — 井戸端会議を広げる方法 —

講師 庄司昌彦氏 (国際大学 GLOCOM 講師 / 主任研究員)

意見交換進行 谷口知弘氏 (同志社大学政策学部教授)

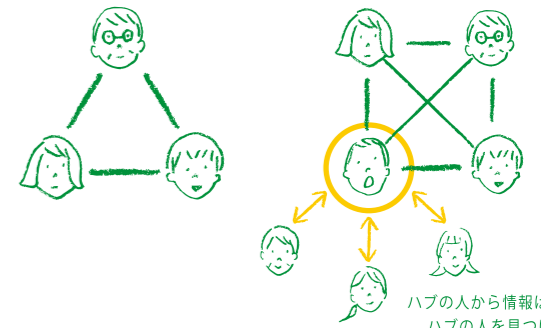
地域社会に必要な「人のつながりづくり」。地域 SNS を地域で人をつなぐことにどう利用できるかを考えました。人の「つなぎ方」には「結束」と「橋渡し」の両方をバランスよく強めていくことが重要になります。

地域 SNS は、この「橋渡し」の方に、より力を発揮しようです。人のネットワークの中でハブとして機能する人とつながると、更に橋渡しが広がっていくと考えられます。こうしたつながりを、実際のサークル活動や集える拠点づくりなどを通じてリアルなつながりに育てていくことが大切です。



結束 人のつながりを強化する。(言葉・知識の共有。仲間意識)

橋渡し 外から人を連れてきてつなぐ。(新しい知識による活性化)



ハブの人から情報は広がる。ハブの人を見つけよう

SNS とは

ソーシャル・ネットワーキング・サービスのことで、facebook や mixi がよく知られている。HP の様に一方通行の情報提供だけでなく、双方向の情報交換や交流を主とした機能がある。地域 SNS は特定の地域で行うもの。

文 = 和田野美久仁

私がみつけた嵯峨・嵐山



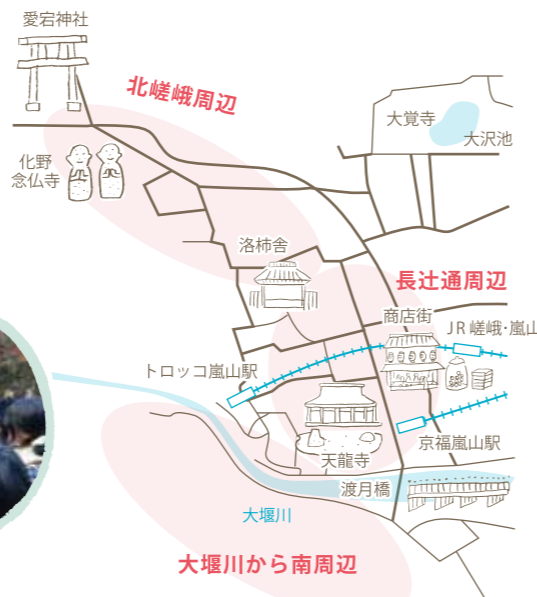
京都市立芸術大学デザイン科1回生が、嵯峨・嵐山地域の方と交流しながら、歴史や景観などへの思いをかたちにしたパネルを制作しました。

フィールドワーク



フィールドワーク (12月)

嵐山のまちの成り立ちを平安時代にさかのぼり、地域の方にご説明頂きました。京都の中心から離れ、別荘地としても栄えたこの辺りは、密約が行われるには相応しい場所で、政治の裏舞台であったかもしれません。その後、北嵯峨周辺・長辻通周辺・大堰川から南周辺 (地図参照) の3チームに分かれてフィールドワークを行いました。



パネル展示会

4/17~23 赤マンマアートギャラリー (嵐山)
5/16~20 ひと・まち交流館 京都



オープニング交流会 (2012年4月16日)、パネル展示

嵐山のギャラリーに作品 (30作品) を一同に会して、ご協力頂いた地域の方々と、展示会に先立ち交流パーティを行いました。一人一人が作品を描いた場所や嵯峨・嵐山の好きなどところを「道端で制作中に、地域の人に優しく声をかけてもらった」「楽しいお店が多かった」「青々とした川の流れがとても美しかった」などと発表しました。嵯峨・嵐山を学生がエネルギー捉えた空間に圧倒されながら「表現が上手い! 地域の魅力の捉え方が新鮮」、「今後、観光客をお迎えする駅空間や通りの行燈に活用できないか」など、地域の方から今後の嵐山のまちづくりに向けた積極的なご意見も聞かれて、和やかな時間となりました。

文 = 大久保悠子・和田野美久仁



「伝統の継承が直面する課題とその解決への道」

第13回世界歴史都市会議



2012年4月16日から3日間の日程で、第13回世界歴史都市会議[※]がベトナムのフエ市で開催され、京都市を含む14カ国・地域の30都市の代表者や、文化財保護及び都市計画の専門家や学生など約300人が参加しました。

景観・まちづくりセンターとしては、理事である宗田好史京都府立大学教授が専門家によるワークショップで発表するとともに、各国の歴史都市との情報交換を行いました。

[※]世界歴史都市会議：世界の歴史都市が抱える様々な問題の解決に向け、情報交換や共同研究を行う世界歴史都市連盟による会議。現在58カ国・地域の94都市が加盟しており、京都市が会長かつ事務局を務めています。会議は隔年で行われ、次回は2014年に中国・揚州での開催を予定しています。(京まち工房58号参照)

「歴史都市における産業遺産と伝統産業」 発表者 宗田好史氏 (京都府立大学教授)

都市の歴史の中で、ものづくりの活動は、独自の文化遺産を創り上げるうえで大きな役割を果たしてきた。その意味で、産業遺産とは、都市の近代化の過程を物語る貴重な文化遺産だといえる。京都は琵琶湖疏水の開削を転機に近代化を遂げ、そして、多くの先進国と同様に、そこに息づく伝統工芸を現代のハイテク産業に進展させた。産業遺産は、その過程を現代に伝え、グローバル化の波の中で歴史都市に固有の文化を際立たせ、より豊かな未来を拓く道を示している。固有のものづくりの分野でも、歴史都市が伝統を受継ぎ、担う人々にふさわしい敬意を払い期待を示せば、伝統文化は大いなる未来を保証してくれる。

フエ市とは?

南北に長い国土の中部に位置し、ベトナム最後の統一王朝、グエン朝の首都 (1802~1945年) が置かれていた歴史都市です。市内には、高い城壁と堀に囲まれた王宮をはじめ、寺院や歴代皇帝の廟などが点在しています。ベトナム戦争により多くの建物が破壊されましたが、王宮などは部分的に復元され、1993年に「フエの建造物群」としてベトナム初の世界文化遺産に指定されました。



ティエンムー寺、八角形21mの宝塔

現在も復元に向けた調査が続く王宮

フエから北へ40km、フクティック村の伝統的家屋

文 = 高橋ありす



改修助成物件でのイベントのご報告

京町家まちづくりファンダを利用して改修した物件で、イベントを行いました。



伊藤邸 雛人形展

2012年4月3日、京まち工房 58号で紹介した伊藤邸で、雛人形の公開が行われました。ご当主が収集・修復された、江戸期の優美な雛人形が、元の意匠を活かし改修された床の間に飾られ、訪れた人々に華やかな春の訪れを伝えてくれました。併せて、床の間やお庭など京町家の特徴のご説明により、町家の良さを伝えて頂きました。

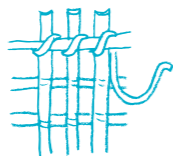


生川邸 土壁イベント

2012年3月18日、京町家・構造見学会（竹小舞・土壁塗り編）が開催されました。施工者である京都府建築工業協同組合（建築組合）の木村棟梁の解説入りで、左官職人の林左官工業 林正信さんの分かりやすい指導の下、参加者の皆さんは、楽しく、竹小舞^{*}の編み、土壁塗りにトライされていました。

^{*}細かく割った竹をわら縄で編んだ壁の下地

竹小舞を編む



土壁塗りを学ぶ



工事完了

井上邸 京町家・風の会例会

2012年3月18日、改修の完了までもう一息の町家で NPO 法人京町家・風の会の例会が行われました。十数名程の参加者は、ビフォーの写真と比較しながら改修の内容を見学させていただいた後、町家で営業されているパン屋さんの手作りサンドイッチやピザを片手に、なごやかな団らんのひとときを過ごしました。なお、工事は、3月末に無事に完了しました。



寄付拡大商品の募集

当センターでは、寄付つき商品の募集を行っています。公益財団法人化に伴い、寄付金は財政面での優遇があります。基金の拡大のために、是非とも御協力ください。

京町家まちづくりファンダ寄付つき商品 コラボ企業
京都青果合同(株) / (株)ドール (株)井筒八ツ橋本舗 コカ・コーラウエスト(株) / (株)伊藤園 / キリンビバレッジ(株) 光村推古書院



文 = 来海賢一・土佐道子

私と京都

株式会社朝日堂 代表取締役会長 浅井國勝

京町家街をつくっては



わたしが子供の頃、京都の町というか旧市街地域は、幸いなことに先の大戦において空襲を受けなかったため、古い建物が多く残っていた。そして他の大都市のように焼け跡の区画整理もなかったため、町の真ん中には、自動車が一方通行でしか通ることが出来ない細い通りが今も多くある。その町並みの象徴的存在として、「京町家」がところどころに残っている。というのが京都の町のすがたではないだろうか。しかし、この京町家も実際にひとが住んでいるモノと、空き家になっていたり、新築時とは異なる目的の人が、使用している場合は、全くその様子が違うのである。いきいきとして、その京町家が元気に活躍しているように見えるためには、その地域の牽引役をしているような存在であることが必要なのではないだろうか。たとえばパン工場とか、造り酒屋とかであることがのぞましいと思う。

そして一番気になることは、その一軒の京町家だけを守ってもだめだということだ。お隣が近代建築では、全くその存在意義を持たないこととなるので、残念である。明治村や江戸村といったら、ロケのセットか、映画の撮影所ようになってしまいうけれども、その町並みを、一塊として、「京町家通り」とでも名づけられるような、こころみは出来ないだろうか。その通りには、コンビニは作らせず、とうふや、駄菓子や、指物や、八百屋、魚屋そして極めつけは、マンションのかわりに、長屋づくり(風)の集合住宅を建てれば、一つの町としてのコミュニティになるのではないだろうか。この町には、自転車以外の、のりものの乗り入れを禁止してしまうのがいいだろう。このような京町家街というか通りというか、タイムスリップしたような、地域を京町家保存のモデルとして創ってみることは、意義深いことだと思う次第。

スタッフのつぶやき

まちセンは、朝から夕方までの A 勤と、昼から夜までの B 勤の2つのシフトがあり、一般的なサラリーマンと違う生活を送ることができる。このシフトはいろいろと便利な部分もある。例えば、子供の保育園の送り出し。昨年度の B 勤の日は、3人の子供を保育園に連れていくことができた。真っ直ぐ歩かないので大変であるが、結構、楽しいものである。しかも、地域(上京区)には、普段から近所の方も声を掛けてくれる



スタッフ K.K

(ビール好きで) さらに美味しくビールを飲むため、B 勤の日はジョギングを頑張っています。

方もおられ、非常に感謝している。その方のうちの一人は、奥様も地域で活動をされていることが判り、ワークライフバランスの取れた理想的な夫婦の在り方だと思った。残念ながら、今年度から、一番上の娘は、小学校に入学し、保育園への登園は2人だけとなった。今後、地域の方々への恩返しのため、地域活動にもぼちぼち頑張っていきたいと思う。

賛助団体

NPO 法人マンションセンター京都 / NPO 法人京滋マンション管理対策協議会 / 松ヶ崎学区自治連合会 / 桂坂学区自治連合会 / 有隣自治連合会 / 平安建材株式会社 / 株式会社 ゼロ・コーポレーション / NPO 法人古材文化の会 / 株式会社 八潮 / 「京ぐらし」ネットワーク / 修徳自治連合会 / 株式会社 フラットエージェンシー